

竹細工教室の準備から本番まで 山田地区 安藤 晴雄

北山田小学校コミュニティハウス主催で夏休み開始早々の7月21日(水)に竹細工教室を行いました。今年で4回目となり、参加は小学生低学年で申し込み31名の内28名がきてくれました。

準備の竹の採取は国際プール周辺の緑地から公園愛護会の協力で切り出します。恒例の箸作りはそのまま、箸ができた前回までは生徒の希望を聞きいろいろなものを作っていましたが、平日の開催なので青少年指導員が集まらず、この教室を始められた吉田さん、山田地区、尾田会長と私の3名なのです。もちろんコミュニティハウスの館長以下スタッフ総員の協力を得てですが、今回は箸ともう一品の竹とんぼ作りとします。

午後1時、開始30分前なのに生徒が集まってきたので大至急準備をしました。いよいよスタートです。いつも通り箸の材料を専用の道具で割るところから見てもらいます。竹の性質を知ってほしいのです！ 割った材料は元、先とも同じ太さです。

これを削って箸先を細くします。作り始めてすぐコミュニティスタッフからカッターの使い方がこわいので使用方をまず教えてほしい！

低学年なので、よく見るとカッターを使ったことがなさそうな感じです。刃を出す長さから持ち方、方向、

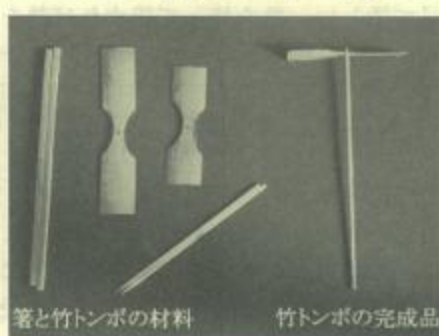
角度、力かげんなどを教えました。実際に使ってみないとわからない面もあります。むずかしい！

予定の1時間で箸は完成させたいが大変です。20分遅れで全員の出来具合を見終わりました。超細かいものや、ずんぐりしたものなどいろいろありますが、本人はうれしそうでした。

竹トンボ作りを30分遅れで始めました。紙ヤスリで表面をみがいて四隅を丸くして、生徒の作業は終わり、スタッフが仕上がりを見ながらろそくであぶって羽を曲げます。羽の曲げ方で利き腕の右、左仕様になります。

塾があるからと帰りたい子が出てきてしまいました。竹とんぼは羽の左右、羽と心棒の両方のバランスが取れば飛ぶはず。この作業は家に持ち帰ってお父さん、お母さんをお願いすることとして、あわてて終了としました。

カッターの使い方から始まった竹細工教室でしたが、ごく小さいケガが1名だけで終わりました。



箸と竹トンボの材料

竹トンボの完成品

青少年育成を進める県民大会 かちだ地区 斉川 正典

7月10日(土)本厚木で行われた、青少年育成を進める県民大会に参加しました。

今回は「青少年と大人が共に担う地域の活動」をテーマにパネルディスカッションが行われました。

具体的なテーマとして三つありました。

- ①子供は赤ちゃんの頃から親に影響されるので親を教育する。
- ②学校が中心となり、コンビニや商店などが連携して青少年にタバコを売らない、また深夜出歩いている学生に注意する活動を行う。
- ③イベントなどで、子どもと

共に大人も一緒に楽しみながら成長する事などを通して、より良い町づくりに繋げてゆく。

以上のテーマについてパネリストの方々によるお話があり、私たちもできることから始めていきたいと思いました。



じゃがいも掘り&葉っぱかるた 都田地区 長岡 智和

7月19日(海の日)午前10時、「JA横浜きた総合センター」において、気温30度を越える炎天下、子どもと役員を含め総勢140名が、恒例の「じゃがいも掘り」に、そしてレクリエーションの「葉っぱかるた」やお昼にカレーライスを食べました。

種じゃがいもを3月に根付し、5月に芽掻き、6・7月に草刈り、前日にはカレーの下ごしらえをして、当日を迎えました。今年もじゃがいもは上出来です。

6列分を交互に、子どもも大人もみんな元気に楽しく掘り出しました。

「大きーいっ!」「すごーい、たくさんあるね」「ここにもあるよ!」と、大騒ぎです。



「葉っぱかるた」は、サンプルの草花を現地周辺で採取し、模造紙に貼り、名称を書き、壁に貼り出します。参加者をグループに分け、模造紙、テープ、マジックを渡します。「スタート!」の掛け声で一斉に同種の草花を探しに行かせ、サンプルと見比べながら模造紙へ貼り、名称を書き、時間内にどれだけ集められるかを競います。わざと1種類だけ近くに無い草花を貼り出していて、直ぐに完成出来ない仕掛けも。チームワークを学ぶ競技でもあります。

優勝チームは、22種類中15種類を集めました。

さあ、お昼です。掘ったじゃがいもで「カレーライス」を食べます。ルーは直径約50センチの大鍋2つ、白米は40キロを業者より手配。盛り付けは子ども会役員の方々にお手伝いいただき、みんなにぎやかにおいしく食べました。

休む間もなく、帰りの準備。お土産のじゃがいもは一人3キロを袋詰め、待っている間には子どもたち全員に「竹とんぼ」のプレゼント。小さな子から大きな子まで、よいしょ、よいしょと、重たそうに持って帰りました。



開催者として、満面の笑みで大喜びをしている姿をみると、長い準備期間を経た苦勞も報われる思いがいたしました。

お父さん・お母さん、そして役員の皆様方、大変にありがとうございました。

夏休み体験教室

池辺地区 伊藤 守

7月18日(日)都田小学校の体育館とグラウンドにおいて、地元の子もたちとの交流を図るため、池辺地区夏休み体験教室(木工工作及びそうめん流し)が行われました。

当日は、朝から気温が上がり暑い中、午前10時に体育館で木工工作から始まりました。

テーマは「ゆかいな森の仲間たち」と言うことで、事前に木材の調達をしますが、切り出しは大変危険な作業なので、経験のある私が担当しました。大・中・小に切った丸木をボンドで貼り付けて行きます。子どもたちは見本を参考に作ったり、アレンジを加えクマ、タヌキ、リス等を楽しみながら作っていました。

グラウンドでは工作の間に、青少年指導員と体育指導委員が共同でそうめん流しの準備です。一週間前から切り出して準

備していた竹を三段につなぎ、約18mの長さの物を4レーン組み上げ水流シテストも終え万全です。

午前11時50分、さあメインイベントそうめん流しの開始です。友達とはしゃぎながら、流れてくるそうめんを取り合ったり、なかなか取れずに苦勞しながらも、皆んなお腹いっぱい食べて満足し、本当に楽しそうでした。

そうめんの他に、飴等も流し大好評でした。子どもたちも我々スタッフも楽しい一日になりました。



夕涼みのつどい

新栄早渕地区 鈴木 隆暢

7月18日(日)恒例となった夕涼みのつどいが行われ、私たち新栄早渕地区の青少年指導員もスタッフとして参加しました。

毎年のことながら雨が心配される時季なので、予備日も確保してありましたが梅雨明けが発表されてからは、快晴・快晴・快晴。当日も、もちろん快晴で猛暑でした。

開場時点では、まだまだ陽が高くお客さんの出足が少なかったのですが、陽が傾くにつれて大盛況になり、かき氷模擬店は大人気、打ち上げ花火でフィナーレとなりました。

青少年から年配の方まで、地域の人を輪作っていく、良いイベントになったと思います。

今回も、ゲームの司会と進行補助を、地域の中

学生がスタッフとして担当してくれました。

実は、開場前に集合したときには頼りない印象があったのですが、始めてみれば、たくさんの人の前で声を張り上げたり、熱心に裏方を務めたりと、立派に仕事をこなしてくれました。

来場いただいたみなさん、中学生ボランティアをはじめ運営に携わったみなさん、お疲れ様、どうもありがとうございました。



イベントの裏側で、青少年指導員がしていることを紹介します。

- 6月20日午後7時：体育指導委員、子ども会役員とともに、打ち合わせ
- 7月11日午前6時：町内会のみなさんとともに、会場の事前整備(草刈り)
- 当日午前8時：町内会のみなさんとともに、テント設営、白線引き
- 当日午後3時：子ども会のみなさん、中学生ボランティアとともに開会前打ち合わせ
- 当日午後7時：花火のため警備～閉会後の片付け
- すっかり日に焼けてしまいました。



初めての夏祭り

柚木荏田南地区 田井 京子

平成21年10月、都筑区15番目の連合自治会として「柚木荏田南連合自治会」が結成されました。荏田南四丁目・五丁目、荏田南町の三つの自治会から成ります。それに伴い今年度から青少年指導員柚木荏田南地区も発足しました。

連合自治会結成後、初めての行事として8月7日(土)、夏祭りが開催されました。青少年指導員の内野さんの企画で、地域の皆様との交流、会員相互の連帯と親睦を深めることが目的です。

オープニングイベントは青少年指導員主催の子どもみこしです。午後3時30分荏田東郵便局前に子どもたちが集まり、紙の花を作りおみこしに飾り付け手作りみこしの出来上がり。

はっぴを着て午後3時40分祭り会場の折田公園

に向けて出発。「わっしょい!・わっしょい!」と大きな掛け声で、最初は低学年の子が担ぎ、途中高学年の子と何度か交代を繰り返し、ようやく祭り会場に到着。広場を大きく一周した後やぐらの前でおみこしを置き、大粒の汗を流している子どもたちは、ふるまわれた冷たいラムネを美味しく飲んでいました。

各町内会からは模擬店を出し、荏田東第一小が琴と三味線、荏田南中が太鼓、荏田高校が焼きそば、他にも盆踊りやカラオケ大会、マジックショー、輪投げなど子どもたちが活躍するイベントが盛りだくさん。

初めての夏祭りは、幼児から高校生まで多くの子どもたちが盛り上げてくれました。

